

「近代東アジア米穀市場における情報効率性と 統合過程」研究成果報告書

野田 顕彦*

要 旨

本研究の目的は、1910～30年代東アジアの米穀市場における市場統合の過程を解明し、その要因を米穀政策の推移との関連から明らかにすることである。分析の結果、日本を中心とした勢力圏内市場と中国を中心とした東アジア市場の関係性が解明され、戦前期東アジアにおける米穀市場は複層的な構造を有していたことが明らかにされた。

キーワード：米穀市場、米穀政策、市場効率性、市場統合、時変計量経済モデル

1. 研究目的

本研究の目的は、1910～30年代東アジアの米穀市場における市場統合の過程を解明し、その要因を米穀政策の推移との関連から明らかにすることである。戦前期日本は、アジア唯一の植民地領有国として米穀に代表される食料を台湾・朝鮮など植民地からの供給に依存した点に特徴を有した。その一方で、上海など中国の貿易港は東アジアにおける米穀取引の中心的地位を占め続けた。このように戦前期の東アジアで並存した日本を中心とした植民地米取引と中国を中心とした米穀取引については、それぞれ日本経済史研究もしくはアジア経済史研究において個別に分析が進められてきたが、双方の相互的な関係性は明らかにされていない。そこで本研究は、各地域の中心的米穀市場であった大阪、台北、仁川、上海に着目し、歴史史料を起点とした定量分析と定性分析によって日本本国・植民地市場間の関係性とそれが勢力圏外の東アジア市場に規定された側面の双方を解明する。

2. 研究成果の概要

本研究では、統計書類から作成した米価データを Ito et al. (2014, 2016, *Applied Economics*) で開発された時変計量経済モデルによって分析し、1910～30年代東アジアの米穀市場における市場統合の過程を計測した。その上で、記述史料を分析することで米穀市場の変動要因について解明した。これらの考察より、以下2点の成果が得られた。第1は、戦前期における日本を含む東アジア米穀市場に変動を生じさせた政治・経済的要因が明らかにされた。申請者は、これまで日本内地で取引所政

* 京都産業大学経済学部

策の変更で米穀市場の機能が変動したことを明らかにしてきたが、本研究では内地から植民地と東アジアにまで視野を拡大したことは大きな貢献であると考えられる。第2は、植民地を含む戦前期日本勢力圏内における各米穀市場間の関係性と勢力圏内市場・東アジア市場間の関係性の双方が明らかにされたことである。Dobado-González et al. (2012, *Journal of Economic History*) が指摘したように、ヨーロッパでは多国間の商品市場間における統合過程を分析した研究が進展しつつあるが、先述したように日本勢力圏内の市場間及びそれらと東アジア市場間の関係性は考察されていなかった。

このように、本研究を通じて、日本を中心とした勢力圏内市場と中国を中心とした東アジア市場の関係性が解明され、戦前期東アジアにおける米穀市場は複層的な構造を有していたことが明らかにされた。このことは、両市場を個別に分析してきた日本経済史研究とアジア経済史研究の双方に貢献しうだけでなく、双方を架橋する意義も有する。すなわち、本研究は米穀の事例から、1890年代から膨張した日本の勢力圏内市場を東アジア商品市場のなかに位置付けることで、日本の対外進出が旧来から存在した東アジア市場の構造を変容させた過程を明らかにすることができたと考えられる。

3. 研究活動報告

研究成果については、国内外の研究者との意見交換に努め、国内外の大規模学会等において積極的に発信してきた。それらの研究成果は、経済史分野のトップジャーナルの1つである *Economic History Review* 誌をはじめとした国際学術雑誌に掲載されており、国際的にも研究成果が高く評価されていると考えられる。具体的な研究活動報告は以下の通りである。

- ・論文“The Futures Premium and Rice Market Efficiency in Prewar Japan”を *Economic History Review* 誌で公刊（査読付）。
- ・論文“Market Integration in the Prewar Japanese Rice Markets”を海外の査読付学術雑誌に投稿。
- ・論文“Discretion versus Policy Rules in Futures Markets: A Case of the Osaka-Dojima Rice Exchange”を Western Economic Association International 93rd Annual Conference in Vancouver, Canada で報告（査読付）。
- ・論文“Discretion versus Policy Rules in Futures Markets: A Case of the Osaka-Dojima Rice Exchange”を World Economic History Congress 2018 in Boston, U.S. で報告（査読付）。
- ・論文“Discretion versus Policy Rules in Futures Markets: A Case of the Osaka-Dojima Rice Exchange”を日本経済学会 2018 年秋季大会（学習院大学）で報告（査読付）。

A Report on “Market Efficiency and Market Integration in Modern East Asia Rice Markets”

Akihiko NODA

Abstract

The purpose of this research project is to explore the process of market integration in modern East Asia rice markets. We examine the relationship between the process and the rice policy using historical materials. As a result, we find that (1) rice markets in a territory of imperial Japan are closely related to the Chinese ones, and (2) rice markets in modern East Asia have a multidimensional structure.

Keywords : Rice Market, Rice Policy, Market Efficiency, Market Integration, Time-Varying Econometric Model

